

自由民主党
西宮市議会議員

田中まさたけ

正 剛

<http://masatake.jp/>

田中まさたけ

検索



市政・市議会報告



将来を見据えた都市設計を考える

文教住宅都市を宣言しながらも、小学校では仮設教室が当たり前になっている西宮。

「子育てするなら西宮」をうたいながら、保育所の待機児童が解消できない西宮。

イメージ先行の西宮でやみくもに許可されてきた開発事業は、将来にわたる切実な課題をもたらしました。

あきらめムードの消極的な市に対して、議会は今、住環境の保全に向けた方策を見出すべく、挑戦しています。

ご意見や情報をお寄せください

高齢化社会における交通政策と開発行政について、市に対して政策提言するために、皆様からのご意見も参考にし、来年6月まで集中的に調査・議論してまいります。

本年6月議会において、建設常任委員会委員長に就任しました。そして、今年度の施策研究テーマとして、高齢化社会における交通政策と開発行政について調査・議論することに決め、10月から本格化させます。

■まだまだ高齢化に対応できていない交通政策

私はこれまで、場当たりの行政運営を批判し、交通やスポーツ振興、保健医療など様々な計画の策定を提言し、市の政策の「見える化」を進めてきました。そして、ようやく市総合交通戦略が完成し、第10次交通安全計画案も示されました。しかし、具体性に乏しく理念先行の内容となっているため、建設常任委員会においてさらに集中的に議論し具体化を図ることにしました。条例制定も視野に

入れ、具体的な取り組みの提言に向けて、議論を進めたいと考えています。

■将来を見据えた都市設計のあり方の検討

市は「都市計画に関する基本的な方針(都市計画マスタープラン)」を策定していますが、大規模な住宅開発が市内各所で進められ、学校や保育所、道路などのインフラ整備が人口増加に追いつかない状況です。市は、場当たりの開発抑制を実施していますが、本来は将来ビジョンに基づいた地域ごとのルール作りが不可欠なのです。また、規制を強化するには、住民の財産に大きな影響を及ぼすことから慎重な検討と手続きが必要です。建設常任委員会での議論を通じて、将来を見据えた都市設計のあり方の検討に挑戦します。



政策提言

～市議会一般質問～

平成28年6月議会での一般質問では、①スポーツ政策と②大規模な住宅開発に対するインフラ整備について取り上げて政策を提言し、市と議論しました。

スポーツ 施設整備

施設が足りないから練習が十分にできない！中央体育館の再整備の検討を契機に、既存の体育施設の有効活用を提言。

平成28年3月に、「西宮中央運動公園及び中央体育館・陸上競技場等再整備基本構想」が示され、いよいよ具体的な議論が始まりました。

■利用者が真に活用できる施設の整備を

限られた財源で再整備するからには、中途半端ではなく、かつ、不要に華美なものにならないようにし、整備後十分に活用できる施設を建設しなければなりません。そこで、新しい施設を定期的に使用する競技関係団体から、責任を明確にするためにも、公式の場で意見や要望を聴取できるような会議を設置し、意見を基本計画に反映すべきと提言しました。市からは、意見を聴取する方法を検討すると、意欲的な回答を得ました。

■既存の体育施設の有効活用を

昨年6月議会において、稼働率が非常に高くなっている市立体育館を補完するために、小・中学校の体育施設を活用するよう提言したところ、部活動など学校行事への影響や防犯など施設管理上の課題を、1年をめどに整理するとの回答を得ていました。そこで、1年が経過した6月議会にて取り上げた結果、今年度、甲武中、上甲子園中、今津中、学文中の4校で、試行的に一般開放が実施されることになりました。小・中学校の体育館やグラウンドなどの一般利用を進めて使用料を徴収し、それを財源として、学校体育施設のより良好な維持・管理を図るべきなのです。

スポーツ 地方創生

東京オリンピックとその後のスポーツ推進によるまちの活性化を視野に、スポーツコミッションの設立を提言。

西宮市は、甲子園球場のある街としてPRされていますが、西宮で野球をする子供たちの練習環境が恵まれているとは言えません。その他、西宮を本拠地とするプロバスケットボールチーム「西宮ストークス」や、日本でも有数のマリンスポーツのスポットである西宮の海辺環境、県内唯一の通年型アイススケートリンクなど、スポーツ資源が豊富であるにも関わらず、まだまだ認知度が高いとは言えず、青少年の健全育成にも十分に活かされているとは言えません。西宮市は、スポーツ政策により、文教住宅都市としての魅力の向上を図ることが可能なのです。

また、他市では、2019年のラグビーワールド

カップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック、2021年の関西ワールドマスターズゲームズが開催されるこの3年間を、「ゴールデンスポーツイヤーズ」と呼び、イベントやキャンプの誘致合戦が始まっています。

そこで、今後の市の活性化に向け、各種スポーツ大会のコーディネート機能を持たせたスポーツコミッション(※)を早急に立ち上げ、本市の豊富なスポーツ資源を活用した地方創生の取り組みを始めるべきと提言したところ、市も意欲的な姿勢を示しました。

※スポーツコミッションとは

スポーツ資源を活用し、大会やイベント、合宿等の誘致と開催支援を通じて、スポーツの分野で新たな観光・交流人口の拡大を図り、スポーツの振興と地域活性化を図る組織のこと。

まちづくり 開発行政

高塚町と田近野町(仁川合同宿舎跡地)の開発計画を取り上げ、周辺の住環境に及ぼす影響について問題提起。

■周辺の住環境に及ぼす影響の緩和

6月議会の一般質問で、田近野町と高塚町での開発計画を取り上げ、計画的なまちづくりに消極的な市の姿勢に対して問題提起しました。

●田近野町(開発面積1万9873㎡)の課題

- ①慢性的な交通渋滞の悪化
- ②開発敷地内にある市境による行政サービスの相違がもたらす地域コミュニティの分断

こうした地域特有の課題の解消に向け、開発を機に地域住民とともに地区まちづくり計画などの策定に向けた協議を開発事業者に要請するよう提言しました。市は、事業者との地区まちづくり計画の策定は困難と諦めており、事業者に対して適切に指導するとの回答にとどまっています。

●高塚町(開発面積4万311㎡)の課題

- ①自動車の増加による歩行者通行環境の悪化
- ②森の伐採による保水機能低下
- ③造成許可後の区画の分筆や緑化率違反

想定される課題の対策に向け、一定の拘束力がある建築協定と緑地協定の締結によって、住環境の保全を図るべきと提言しました。市の回答は、協定の締結については意欲的なものの、自動車交通量の増加による歩行者の安全対策の必要性に対する認識の甘さが露呈したため、厳しく追及し、慎重な対応を求めました。

●その他の大規模な開発時の課題

- ①自治会加入の促進・自治会費の徴収等の対応
 - ②幹線道路での工事車両の待機防止対策
- について問題提起し、市からは意欲的な回答を得ました。今後も、動向を注視して参ります。

■計画的なまちづくりに対して無策の市

現在、西宮市では、5年前に策定された「都市計画マスタープラン」によって、市全体のまちづくりの方向性が示されています。しかし、従来の具体的な地域別計画はなく、住民による「地区まちづくり計画」の策定に委ねてきたものの、計画は一つも策定されていません。また現在は、「教育環境保全のための住宅開発抑制に関する指導要綱」により、住民による法的な合意も、将来ビジョンもなく、場当たりに当面の人口急増を緩和する事実上の開発規制が行われています。

市は、計画的なまちづくりができていないという私の問題提起に対して、平素からまちの将来像実現に向けたルールを策定しておくのが望ましいと回答しました。しかし、市民はそうした市の考えを知りません。ですので、市がもっと積極的にまちづくりに乗り出し、住民参画による計画策定を促すべきなのです。現在のところ市は、あきらめムードであり、これまでの失敗に対する具体的な改善策は示されませんでした。今後、建設常任委員会で議論したいと考えています。



田近野町の近畿財務局仁川合同宿舎跡地の形状

イメージ先行の市政運営の先にあるものは、衰退といっても過言ではありません。一方で、市は相変わらず他人事です。だからこそ、私たち議員、市民は、現実と向き合い、自分たちの住むまちの将来のために、行動しなければならないのです。

西宮市の財政は大丈夫なの？③ 財政構造改革の必要性

前号までに、税収の推移と将来への投資について掲載しましたが、今回は、経常経費のうち人件費について取り上げます。

■近年また職員数と人件費が増加

これまで、人件費が高いとのご意見を伺ってきました。そして、西宮市では、10年前に取り組んだ財政改革により、人件費も正規職員数も削減してきました。しかし、5年前より再び正規職員数は増加に転じ、**平成27年度決算で再び人件費も増加に転じました。平成28年度当初予算も前年度と比べ、約3億3000万円増加しています。**

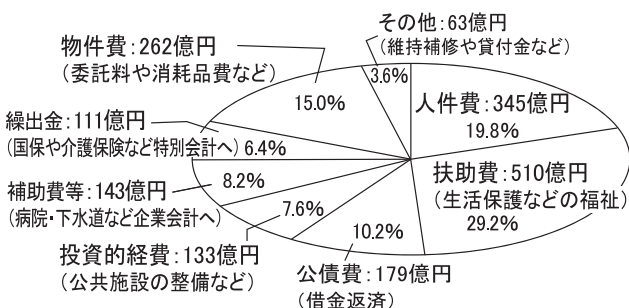
また、今後の高齢化による社会保障関連経費や施設の老朽化対策などの費用が増加すると見込まれ、現在約220億円ある貯金が、平成37年にはほぼ枯渇する見込みとなっています。少子高齢化が進むなか、大幅な収入の増加は見込めないことから、今後一層の経費削

減が必要となります。

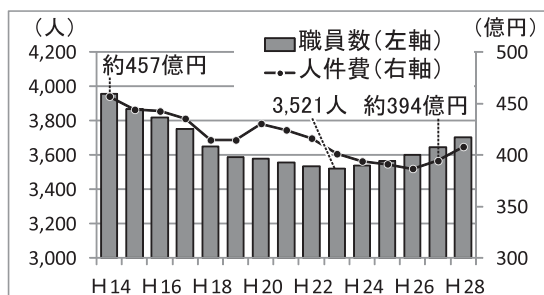
①公立保育所の民間移管、②学校給食業務の民間委託、③公立幼稚園の民間認定子ども園への移行、④議員定数の削減等を実施すれば、人件費をさらに抑制でき、財源を生み出すことができます。また、年間10億円を超える市立中央病院への市税投入も大至急改革が必要です。

これらは一気に進めることが困難な改革です。財政効果が発揮されるのに時間を要する改革もあります。ですので、**これらの対応が遅れば遅れるほど、福祉に要する経費など、将来の市民生活に大きな影響を及ぼす経費を削減せざるを得なくなる可能性が高まります。つまり、この現実から目を背け、放置したツケを負わされるのは、結局私たち市民なのです。**だからこそ、将来世代のためにも、現状を知り、行動していかなければならないのです。

■一般会計当初予算の内訳（平成28年度）



■人件費と職員数の推移



人件費は決算(H28のみ予算額)
職員数は4月1日現在の常勤正規職員数

発行責任者

田中正剛 たなか まさたけ

昭和50年7月生まれ/大阪府立四條畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市議員事務所に4年間勤務/平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選(27歳)

■政党:自由民主党 ■現在の担当常任委員会:建設常任委員会(委員長)

■市議会での主な役職:建設常任委員会副委員長(1期2年目)、厚生常任委員会委員長(1期3年目)、西宮市監査委員(2期1年目)、フレンテ問題特別委員会委員長(2期3・4年目)、病院問題特別委員会委員長(3期1・2年目)、阪神水道企業団監査委員(3期3年目)、副議長(3期4年目)

過去発行分のチラシも是非ご覧ください！ご連絡頂きましたらお届け致します。



○第45号 「お役所仕事」のツケ

・掲載内容: 保育所不足問題 / 学級崩壊・不登校問題 / 防犯対策 / 介護予防など

○第46号 遅すぎる市の政策決定

・掲載内容: 財政問題 / 放課後居場所づくり事業 / スポーツ政策 / 交通政策 / 道路アセットマネジメント / 公共投資など